

本プロジェクトでは、応募企業の皆様をこのようにサポートしました

平成 27 年度 各企業の状況に応じた ESD モデルプログラムの検討

- ▶ ESD モデルプログラム作成方針をとりまとめました。
- ▶ 応募企業を対象に、プロジェクト参加のニーズや期待すること、企業の特徴などについてヒアリングし、情報収集を行いました。
- ▶ 瀬戸内海の環境保全につながる多様な視点と、企業のニーズや特徴を踏まえた ESD モデルプログラム案を応募企業に提案し、意見交換を重ねながら作成しました。

■ モデルプログラムの検討会に参加いただいた皆様

企 業	宇佐美正彰氏 三井住友信託銀行 岡山支店・岡山中央支店 支店長
小桐登氏	元気トントボ 環境マネジメント担当、環境 × スローライフ × CSR 研究所 代表
齊藤考治氏	前キリンビール(株)岡山工場 エンジニアリング・環境安全担当部長
田中茂氏	キリンビール(株)岡山工場 エンジニアリング・環境安全担当部長
有 識 者	田中丈裕氏 NPO 法人 里海づくり研究会議 理事・事務局長
友延栄一氏	岡山市市民協働局 ESD 推進課 主査

(平成 29 年 2 月時点)

平成 28 年度 ESD モデルプログラムの具体化に向けたコーディネート

- ▶ 連携先となる学校や市民団体などの候補を提案し、応募企業との協働が円滑に進むようコーディネートしました。



岡山県立大学とのワークショップを実施。両者が協働した紙芝居の制作をサポートしました。



社有林を、有識者や落合野鳥の会など地元団体と一緒に踏査。その自然の価値を確認し、社員の皆様と共有しました。



担当者と、プログラムの具体化に向け進捗確認や意見交換を行いました。



プロジェクトチームとワークショップを実施し、企業活動と瀬戸内海とのつながりを全社員に考えてもらう方法などについて一緒に考えました。

平成 29 年 2 月発行

環境省中国四国地方環境事務所・中国環境パートナーシップオフィス

作成：公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会

瀬戸内海の環境保全を目指す企業向け ESD 支援プロジェクト

取り組みの内容と成果

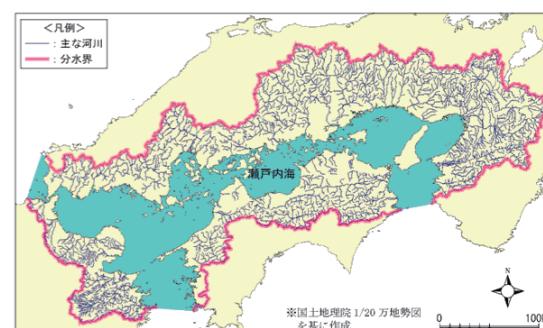
● プロジェクトの目的

瀬戸内海の環境保全に向けて、森・里・川・海のつながりや ESD* を意識した企業の取り組みを後押しすること。

* ESD = Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)

瀬戸内海は、その流域に暮らす私たちに多くの恵みをもたらしてくれる大切な生活基盤です。このプロジェクトでは、この基盤を守っていくため、海だけでなく上流から下流に至る「瀬戸内海流域」全体を視野に入れ、幅広いステークホルダーをもつ企業を対象に、社会貢献や人材育成の ESD モデルプログラムづくりと実践活動をサポートしています。

■ 瀬戸内海流域の範囲



瀬戸内海は、本州、四国、九州に囲まれ 3,000 万人の流域人口を抱える我が国最大の内海です。瀬戸内海流域に降った雨は、658 水系の河川を通じて海に流入しています。



プロジェクトの成果 ～企業が得た 5 つの機会～

- ① 自社の事業や社会貢献の社会的な意義を考える機会に
- ② 新たな協働相手と出会う機会に（流域の学校や自治体、NPO など）
- ③ 自社の良さを再認識する機会に
- ④ 効果的なコミュニケーションによる組織能力の向上の機会に
- ⑤ 生活の中で瀬戸内海とのつながりを意識する機会に



● プロジェクトの特徴

- ① 森、里、川、海ごとの個別の取り組みや行政界ごとの取り組みだけでなく、瀬戸内海流域を意識して取り組んでいます。
- ② 瀬戸内海の価値、現状、課題などの情報を、瀬戸内海流域の市民に向けて広く発信します。
- ③ モデルプログラムの実施が企業活動の負担にならないよう、取り組みやすさや継続性に留意しています。
- ④ 企業の専門性、これまで取り組んできた CSR 活動や社員研修等の分野、企業の希望をふまえた ESD モデルプログラムを提案しています。
- ⑤ 持続可能な社会の構築に向けて、企業による ESD の実践は重要な視点となっています。瀬戸内海の環境保全を推進する社員が育成されることにより、その社員を通じて、家族や取引先、一般市民、地域社会へと持続可能な発展の取り組みが広がることが期待できます。

(株)荒木組

■ プログラム名 「マスメディアを通じて瀬戸内海と川・里のつながりを広く発信」 「工事現場の仮囲いを使った普及啓発」

■ 企業のねらい 地域貢献、企業のイメージアップ

■ 概要

瀬戸内海の環境保全に向けて問題となっている海ごみの解決には、上流地域（森・里・川）でのごみの抑制が必要です。本社周辺で行っている定例の清掃活動に海ごみの視点を加え、近くの旭川沿いまで活動範囲を広げるとともに、吉井川の堤防工事にあわせて幸島小学校4～6年生を対象に環境保全イベントを実施しました。また、このような活動について、自社の宣伝活動のために掲載している新聞広告や工事現場の仮囲いを活用して、流域の市民やステークホルダーの方々に広く発信していく予定です。

成果と展望

- ▶ ESDについて、社員や地域住民の理解が少しずつ深まっています。
- ▶ 今まで地域貢献という意識はぼやっとはあったのですが、今回、社員が同じ方向を向き一体感が生まれました。
- ▶ ナノプラスチックなど、さらに掘り下げる内容の教育や、協力業者への清掃活動への呼びかけもやっていきたいです。

総合建設業（岡山市）



写真上：
環境保全イベント
写真下：
新聞広告（予定）

NIK環境（株）

■ プログラム名 「“ゆるキャラ”を活用した瀬戸内海の環境保全」

■ 企業のねらい 地域貢献、企業のイメージアップ

■ 概要

自社でつくったゆるキャラ「エコ&ピース ラヴちゃん」を主人公とした、瀬戸内海の環境保全に関するストーリーをつくり、岡山県立大学デザイン学部、山下明美先生のゼミの皆様と一緒に紙芝居を作成しました。今後、社員がこの紙芝居を使って、岡山県南の幼稚園や保育園などで出前授業を行っていく予定です。

成果と展望

- ▶ 関心とやる気と協力者がいれば、素人でも環境講座の指導者になれることが実証できました。
- ▶ 岡山県立大学という協働相手を見つけることができました。
- ▶ 今後は紙芝居を利用してくれる人、一緒に開発してくれる人をどんどん増やしていきたいです。



紙芝居の表紙

産業廃棄物処分業等（倉敷市）

倉敷木材（株）

■ プログラム名 「森と瀬戸内海のつながりを感じてもらう『暮らしと木のフェア』の開催」

■ 企業のねらい 企業としての情報発信、商品・サービス、社会貢献を考えることができる人材の育成

■ 概要

毎年、春と秋に開催している一般向けのイベント「暮らしと木のフェア」で、森と瀬戸内海のつながりを感じてもらう仕掛けを考えました。若手社員からなるプロジェクトチームを結成し、森里川海と普段の暮らしとの関係を社員全員に考えてもらい、その内容をクイズラリーとクイズ大会に反映しました。また「大迷路」は高梁川の流域をイメージしてリニューアルしました。

成果と展望

- ▶ 全社員へのアンケートを通じて、社員に瀬戸内海とのつながりについて考えてもらいました。（回収率は9割という高さ！）
- ▶ フェアの雰囲気が変わったね、と言われました。
- ▶ 今後もこの取り組みを継続していきます。



写真上：大迷路
写真下：あえて難しくして親子の会話をうむクイズラリー

木材・建材卸売、住宅建築等（倉敷市）

服部興業（株）

建築・土木資材の販売・施工、石油製品の販売、山林業、不動産運営（岡山市）

■ プログラム名 「上流の森のことを下流の人々に発信」

■ 企業のねらい 社有林における多様な価値の見直し、地域貢献、企業のイメージアップ

■ 概要

真庭市にある社有林（約380ha）を、瀬戸内海に注ぎ込む水や栄養塩類を育む水源の森ととらえ、その生態系を守り活かす企業の想いや工夫を下流域にも広く発信していきます。まず、社有林で毎年8月に行っている新入社員研修（3泊4日）のプログラムを見直し、瀬戸内海の環境保全につながる題材を追加しました。そして、研修に参加した社員が学んだことを壁間にまとめて、岡山市内で運営している自社の駐車場に掲示しています。

成果と展望

- ▶ 我々自身が社有林の魅力を再発見できたのが最大の成果です。
- ▶ 横のつながりが生まれ、新入社員や県南の方々に学びの場を提供できました。
- ▶ 今後は他部門、全社員、その家族にも発信し広げていきたいです。
- ▶ 山で働く我々は、より環境に配慮した事業を推進していくつもりです。



写真上：新入社員研修
写真下：駐車場での掲示